



渡航から帰国までの生活・学力適応

-- 子どもの適応への保護者の役割 --

INFOE（海外子女教育情報センター） 代表

松本 輝彦

海外への渡航から日本帰国後まで、子どもは様々な環境の中で生活し学びます。

そのなかで、渡航直後の数ヶ月と、日本帰国後の数ヶ月が、生活・学力の適応にもっとも大変な時期です。その時期に、子どもに何が起きて、保護者としてどんな考え方、対応をすれば良いのか考えて見ましょう。

教育のニーズの変化：渡航から帰国まで

海外に渡航した児童・生徒が海外で教育を受ける場合、渡航前から日本帰国後まで、滞在時期に応じて次のように、子どもたちの学習のニーズが変化してゆきます。

- 1、渡航準備
- 2、渡航後の現地適応・教育
- 3、現地校・日本語での教育
- 4、帰国準備
- 5、日本帰国後の適応・教育
- 6、日本での教育

この区分で、3と4が「海外子女教育」、5が「帰国子女教育」と、一般に呼ばれています。

保護者の皆様にしっかり理解していただきたいのは、子ども達は、渡航から帰国、帰国後も含めたそれぞれの時期に、異なる問題に出会うという事実です。それは、とりもなおさず、保護者の皆様にとつて、それぞれの段階で、どのような教育が必要かを、考える必要があるということです。

また、子どもが現地の生活や学校で抱える問題は、その子どもの年齢・滞在年数・性格などの非常に多くの要素が複雑に絡み、また、その問題の種類・深刻さも多様です。そのため、お子さん一人ひとりのケースを個別に考えなければなりません。

ここでは、子どもの適応へのサポートのために保護者の皆さんができる一般的な事柄を、まとめてみます。

渡航後（現地で）の適応

現地生活への適応

渡航直後は、ABCも分からない子どもを現地校へ入れるのですから、家族全員が緊張し、力を合わせてサバイブしています。この時期、適応で大きな問題はあまり見られません。もちろん、文化や習慣の違いでミスをしたり小さなトラブルに巻き込まれたりすることはありますが。

渡航後半年位すると、初期の異文化適応緊張期がすんで、生活・緊張が緩んできます。この時期は、周囲の期待も高まってきますので、お子さんの適応に十分注意が必要です。

勉強のサポートを

お子さんの適応のために、皆さんが最初にするのは、良い成績を取るための「勉強のサポート」です。子どもは、保護者の勉強・成績への期待をひしひしと感じています。

「家庭教師や塾」ではなく、まず、ご自分で教えてください。いや、子どもと一緒に勉強してください。現地校の宿題を一緒にやってみましょう。「私には無理」と尻込みするお母さんがいますが、お子さんは「何をやればいいのか」すらわからないのです。十分手伝えます。

算数・数学から始めましょう。計算問題だけでOKです。その計算の仕方を日本語で教えてあげてください。日本語で勉強したことのない計算なら、1学年上の日本語の教科書や参考書を使うのもいい方法です。

何とか、お子さんが「計算はできる」と自信を持つまで、がんばってください。一つでも自信の持てるものがあれば、現地校への適応がスムーズに進みます。

「計算問題ができるから、現地校に行った」というのは、海外での子育ての先輩たちの言葉です。

子どもと接する

海外では、学校への送迎や帰宅後の時間など、お子さんと皆さんが接する時間が日本のいたときに比べて倍増しているはずです。この時間を有効に使ってください。日本の時とは違った、子どもとの関係を築くチャンスです。

学校から帰宅した子どもに「どうだった」としつこく聞くと「別に」の返事で終わります。おやつを用意して子どもと一緒にソファに腰をかける仕掛けを作れば、徐々に学校の様子も見えてきます。

そんな関係が築けたら、皆さんが知った現地でサバイブするための知識を、お子さんに話し、共有してください。何も知らない子どもに、何も教えないで、「なぜできないの!」と責めることがないように。

「海外にいたときは、家族全員一緒にがんばった」との言葉は、帰国した子供たちからよく聞きます。海外で子どもたちが頼りにできるのは、皆さんしかいないのです。